

軍
事
傳
記
卷八
下 篇

45

487

8

国文学研究資料館

侍用集卷第八目録

十ニ

竊盜卷下

一ノ

家廻よさら御西也も家事

二

和廻化法く事

三

夜まりに喰物をり

四

和討人役く事

五

旅宿のゆく事

六

旅人おげき道く事

七

追うけ物く事

八

火事の用心得く事

ユ力

九 敗者シテコトナリ者アヒテはアヒテをアヒテ別ベツく事

三ミのビをミくムト

候マサニ宿マサニ往マサニ居マサニる

囚マサニ人マサニ事マサニ

十ミ三ミ人ミとミ鶴カク羽ヒいミタ

科カク人ミセミめミやミうのミト

切カツ敵アヒテ人ミのミ介カツ端ハタケはミやミう

十六 円カク角カクやミく人ミ圓カク付カクくミト

十七 円カク換カク使カクのミ人ミ心カハ觸カハくミト

侍用集卷第八

竊盜卷ト

第ミ一ミ 竊アヒテ迴アヒテ弓アヒテ箭アヒテ有アヒテるアヒテ事アヒテ

一ミ毛アヒテ道アヒテハアヒテ弓アヒテ強アヒテ敵アヒテとアヒテなるアヒテ軍アヒテハアヒテ法アヒテ陳アヒテ而アヒテ城アヒテ中アヒテも敵アヒテ

小アヒテ弱アヒテ内アヒテとアヒテれアヒテてアヒテらアヒテよアヒテ劍アヒテづアヒテきアヒテ竊アヒテ盜アヒテよアヒテ火アヒテとアヒテなアヒテれアヒテ敗アヒテ軍アヒテ

もアヒテ事アヒテ済アヒテ又アヒテ弱アヒテ民アヒテ者アヒテハ馬アヒテ食アヒテ物アヒテ具アヒテとアヒテとアヒテすアヒテれアヒテひアヒテせ

也アヒテを平アヒテせアヒテてアヒテもアヒテ民アヒテ家アヒテとアヒテりアヒテ人アヒテとアヒテよアヒテ眼アヒテあアヒテふアヒテりアヒテつアヒテるアヒテ身アヒテとアヒテせアヒテまアヒテたアヒテめアヒテなアヒテすアヒテれアヒテ不アヒテよアヒテしアヒテとアヒテ合アヒテかアヒテりアヒテとアヒテ下アヒテかアヒテりアヒテてアヒテかアヒテーアヒテ敵アヒテのアヒテ竊アヒテ盜アヒテとアヒテ入アヒテるアヒテやアヒテ

小アヒテ事アヒテめアヒテあアヒテなり

第二 長廻ル法事

篇下

一長廻ルヨリあめり太陽も西没て又人教するもあ
ソリハモ着ちづよまくもとま鶴三千人頂を四時へ移
るより一町廻ルシテ少少の者十人四百人通道をと極ム也
猿馬のたれよがラサ炮を面見し口づけをすまくシテ
せ歩行者もあき給人引ひまつて騎るより町を跡小め人
自あきれあり者を通フ。細大の不敵近隙をさくらむ
も歩くと騒ぐの長廻有ての化法見て廻らむ也へ
からまて二十人引ニモ小廻すも由又長廻の二三町も従フ
人數か六人船を長途具を不おして歩ひまそ廻ト是物
三度の役也。長廻一長廻を廻ハ物をセハ多モ廻トむ小舟か

け物けよんを付クシテ肝要なり

第三 長廻日暮物可窮事

一夜廻ル一の自力の効とせよもんにいたる物見たりとん
ぬふ事あれば無わらひ味方小早もとよくとぞ肝要もとすき
む味方らしき不満ひみぢりようもとぞとぞとぞとぞとぞ
きなとひわくふとよとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
小早のとよみぢり味方合約合形へとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
不満のとよみぢり味方合約合形へとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ

ノ歎死する事無く死へり。かばるをもむれ
らのせひまきとどりよひ。物らもじに落ちて
しよ

幕下

る。あやめの時、赤紺者三人のう。紙ハ通會ト共す
の時、あがゑ者只今よみをとひとくぬまおう者
をもねよあー。わざわらハ歎^{てき}シよびとつまうく
とお迎^{むか}す。かくよみの後^{アフタ}、落^{ハシ}て
シテ、おひきたるを見はづらひ。道^{シナ}をとくめ歎^{ハシ}を
とすらぬ。鬼^{カニ}道^{シナ}をみゆきよち控^シ事^{アリ}。かく事^{アリ}
あつまひ。かく小勢^{シナ}を細^{ハシ}事^{アリ}。かく事^{アリ}
をこみて。過別^{ハシ}を過^{ハシ}。かく作^{ハシ}られ。へらび^{ハシ}と過^{ハシ}
細^{ハシ}の。うち入^{ハシ}と過^{ハシ}。からハ歎^{ハシ}を方^{ハシ}にて。と難^{ハシ}を

ト。から^{ハシ}をもさり入^{ハシ}を出^{ハシ}で。かく事^{アリ}。すくな
と細^{ハシ}をとて。かく事^{アリ}。又^{ハシ}を細^{ハシ}をとて。それ
かく事^{アリ}。かく事^{アリ}。かく事^{アリ}。かく事^{アリ}。
きくと東方^{ハシ}。かく事^{アリ}。契約^{ハシ}とそも^{ハシ}を立^{ハシ}。相^{ハシ}業^{ハシ}
うち^{ハシ}をとくの^{ハシ}。かく事^{アリ}。總合^{ハシ}を立^{ハシ}。要^{ハシ}也
あら^{ハシ}をせざ^{ハシ}。或^{ハシ}敵^{ハシ}と旗^{ハシ}中^{ハシ}もあ^{ハシ}。づけ^{ハシ}或^{ハシ}敵^{ハシ}中^{ハシ}ふ味^{ハシ}
方^{ハシ}うち^{ハシ}す。かく事^{アリ}。かくの時、事^{アリ}と立^{ハシ}。信^{ハシ}。後^{ハシ}
とて、かくおこりんす。かく事^{アリ}。かく物^{ハシ}を立^{ハシ}。かく事^{アリ}。
主^{ハシ}とおこりんす。かく事^{アリ}。かく物^{ハシ}を立^{ハシ}。かく事^{アリ}。

一敵のまうちとまどけのまくわくみもくにしうまう
きとあひてみのまくわくも不敵を引く裏裏

又事まく端よまくもみえまくはる通ひゆるやまの
も立とお敵のうわゆともへんかをまくわくせへうら

第六 織富心得う事

織たつよそらくらくよまめのりと玉。陈めぐらてくらうぬつき
也。大櫻おほざくらのぬ寝取の近ちいよのねとのまめと玉を委ませりふ
机まなす木きとくせ。かきく縫ぬいまうりきくてく小かれ人ひとまの陳めぐらの
下しも。信通しんつうをまもむ立たてまうづきくもとよ心こころと付つけま
くうづきとみまくまのふみとくもと付つけまふみ
心こころゆくをうづ。け文荷物ふみあらへ紙帳しじょうとづり。毛荷物もう暮

ぐくすじにのせて墨すみるもまくづきも大事おほの物ものと付つけま
中なかふ玉たままうりまうり。角つのりやすさが下さり切きり。壁かべトリ
三さんうきうきうきうき。節せつりえいきうきうきの時ときに付つけまうり

第六 織人たつじんへき通つうまうり事

ひくり織たつよへ小身こみの人ひとを誰だれす。古家こいえよとす。戸障子とじやうし
よかくままでうけのうへあきとす。肩かた心こころも享うまう
つまやせんとちよ時の人のあくまうす。小身こみの跡あとうらの誰だれす
をりよそひななり

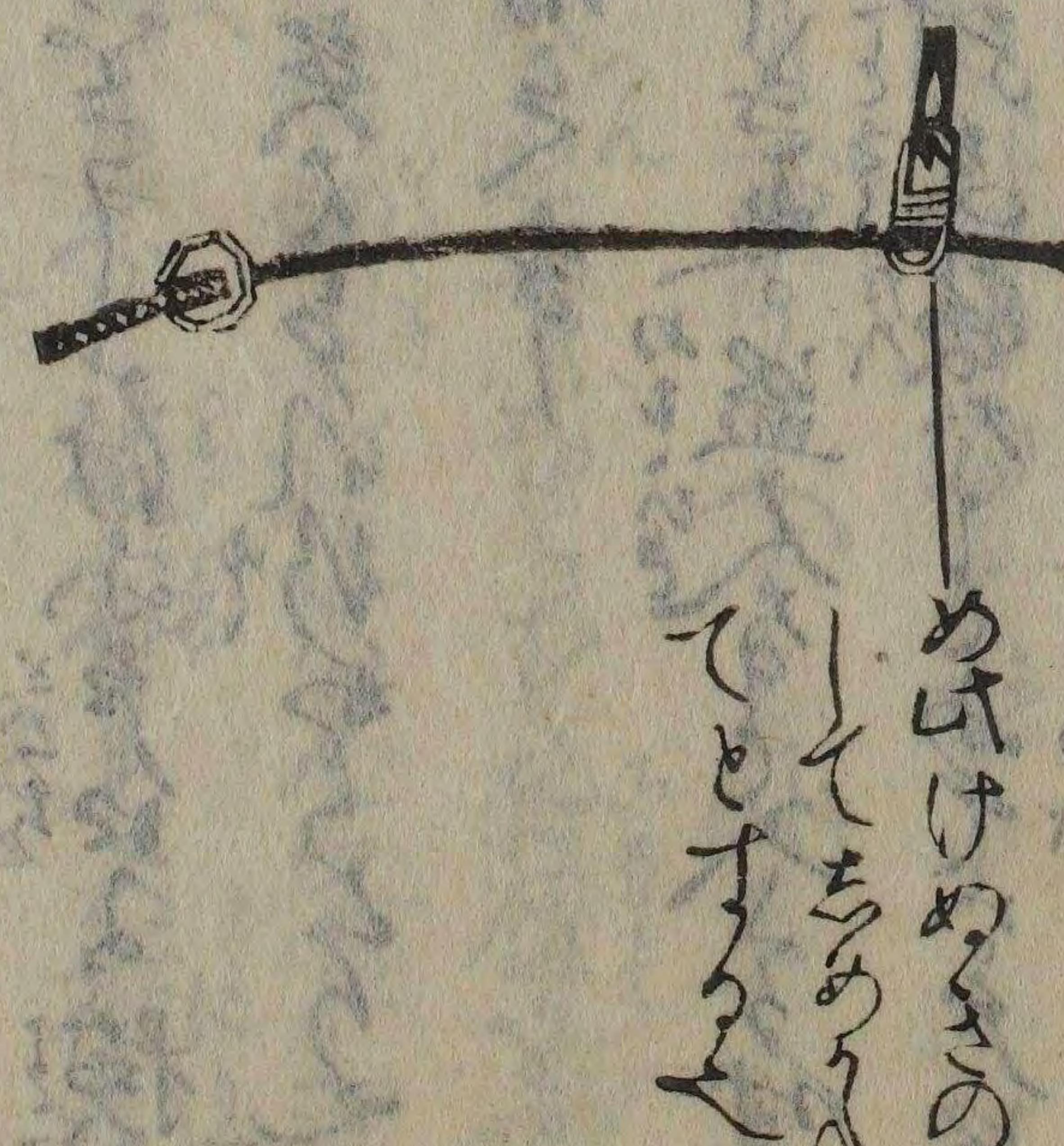
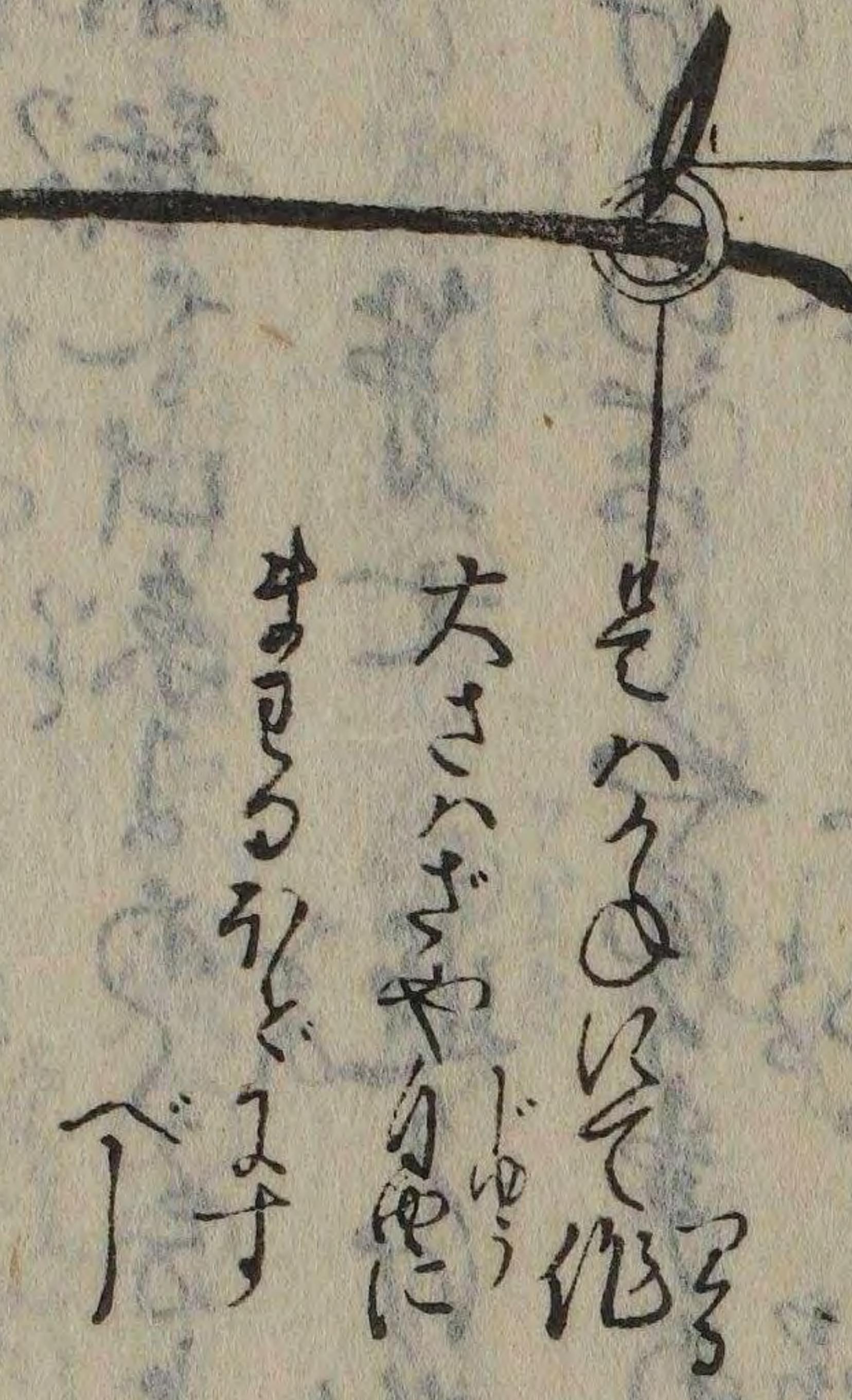
○織たつよそ。柄つかと趙あわうら。札さつ後ごと寢ねる。小玉刀こだ脇わき持も附つき
とあけと活なま合あて柄つかと孫まごのまもと。ト柄つかと妻めて翁おきなり
○織方たつ織たつ屏风びやうふのよ。けのまうりひづら拂はすの用もち

是ハ身かのうと身をなうじきもあらまへ

右向あん

右屏風の外と身内の方は身の外と身内の外
ありとねひ身たぐ。但構用物をもつて身内の方を更
に追げ者財又身内と行取る刀脇持て海りぬけりのうち
モニラあてと本おまか

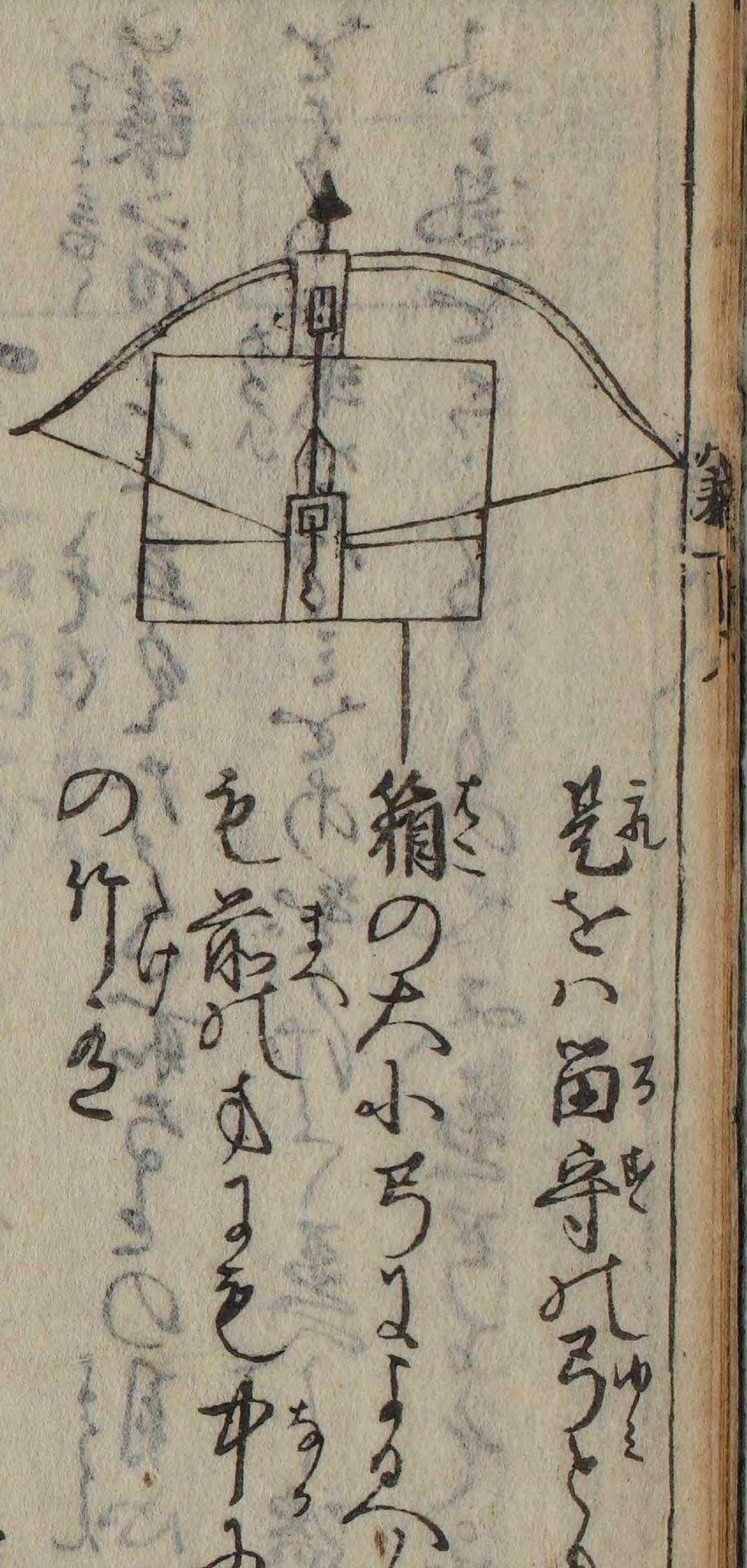
是ハ身に通達候をよし
是ハ身の身化
大さばざやうに
まほらうす



是ハ身に通達候をよし
是ハ身に通達候をよし
是ハ身に通達候をよし
是ハ身に通達候をよし

卷之二

鬼と面争ひうどる文



翁の大小よりするうちのあるのれ
を前ある色中より三番よ矢あら
の竹さ

右こじやよあとつを。たひれよ行ふとせり。右
ひとどうらす。もあもしりとて。門戸によ模ひ
小強く。ばあよわく。あと矢をもれ。おまくらの口傳

第七 追かけ者之事

一追かけりのと。くやゆき事あき也。盜人をと入る時もあ
心なく。出食。あくと。丸半多引又。藏など。あそひ。戸口も不
動。間はす。ぬよし。まよし。す。ねて。竊盜へ従ひり。

第八 火事と之時ゆゑ事

一火事よ。あざり。衣うすきも。恐うす。風下に。せき
さす。急別やす。御めす。まき。あむち。と。死辱。まよ。せ
多み。もや。きり。色火。煙の。ア。き。は。御ふ。き。ハ。火。と。き。の。せ
も。火。も。と。火。あ。と。い。れ。心得。も。ス。一族。宿。も。の。荷。物。よ。せ
付。づ。と。も。す。火。事。よ。火。と。監。人の。用。ひ。ま。と。九。世。よ。よ。敵。よ
せん。と。す。よ。と。や。事。む。と。あ。や。う。と。と。も。承。り。き。と。
通。空。よ。じ。ざ。ら。と。西。よ。れ。教。う。と。而。と。き。時。の。龜。や。と。事。方
や。河。く。隣。家の。焼。り。よ。も。あ。と。よ。き。と。と。時。の。孫。さ
き。の。家。と。よ。き。と。と。と。と。

卷九

五
七
九
十一
十三
十五
十七
十九
二十
二十二
二十四
二十六
二十八
三十
三十二
三十四
三十六
三十八
四十
四十二
四十四
四十六
四十八
五十
五十二
五十四
五十六
五十八
六十
六十二
六十四
六十六
六十八
七十
七十二
七十四
七十六
七十八
八十
八十二
八十四
八十六
八十八
九十
九十二
九十四
九十六
九十八
一百

一丸落す。滅ぼす事無く。方とひどくもあらず。かくも
かくもあらざる事無く。勇氣あらず。ねじきともすがた
なこと切まち。或ひそよめ。たゞすきと立候てはいふ
かすりのをもとへす。すりもあすりもいふ。物
のひき見ゆが死せんをばえましゆゑて
きぬあらわのと殺すゆゑ。かねに竊盜をとる。或ひ死
出ゆき捕縛ゆきかたり。仕事勞どり。もとより窮
ぐれすと聞ひます。やせゆつあるこそ。もや
うちも。まことに乱世である。おの國のことをさす。まことに

卷之三

卷之三

物見る。二方ふ意を以て。まよひ物入る。内とのうき
一前のまじめに。あらわのれいをうきつる。内と
あらわの事。あらわ書たまへり

○うちとらじともあはれ時又は竊盜あり。門のうゑんのま
ととがしり難よりとらじて隣家へとお乞うき
行もありかとらじ

さきまぬけと敵のああると焼落してゆめき入ひとせ
右の方へ移りて宿ア左馬(せき)。腰痛(こしゆう)
の頭(まくら)も用ひもするべくゆるやかのまへんのまへま
せん(せん)

ちの一族(いっしやく)

第十一 跡(よどみ)高(たか)須(す)居(ゐ)居(ゐ)事(こと)

旅(りょ)とも天井(てんじやう)ある家(いえ)。二階(にかい)の下(した)よりひとりたび(ひとびと)休(やす)む
す。又大甥(おおねぎ)つてくらう時(とき)。二ふと下(した)と二ふ(ふ)外(ほか)へ
事(こと)をそなへやす。をきだらとわける。待(まつ)きの下(した)と

かと算(さん)させ。又書(か)いた方(ほう)とハ松(まつ)の方(ほう)をまづ(まづ)とてと
うつてく立(たつ)てゆきとゆく。寝(ね)て寝(ね)てと入(い)廻(まわ)す。二ふ(ふ)も教(た)
あ教(た)と見(み)て。又甚(ひそ)めに見(み)た。老(おとこ)れ虫(むし)の鳥(とり)は
の(の)あ(あ)とやつて。氣(き)を(を)き(き)。氣(き)よ(よ)も(も)う(う)れ
ふ(ふ)を(を)う(う)き(き)も(も)う(う)れ。ふ(ふ)と(と)甘(あま)い(い)な(な)ま(ま)い(い)び(び)そ(そ)
な(な)りと(と)う(う)ら(ら)と(と)ま(ま)い(い)も(も)う(う)れを(を)う(う)。

第十二 囚(ごう)人(じん)之(の)事(こと)

めあ(あ)うと(と)た(た)と(と)から(から)め(め)う(う)め(め)。そ(そ)ゆ(ゆ)う(う)ん(ん)を(を)う(う)と(と)と(と)
か(か)じ(じ)と(と)引(ひ)う(う)り。縋(くわ)き(き)と(と)あ(あ)ふ(ふ)と(と)ま(ま)い(い)あ(あ)う(う)を(を)う(う)
う(う)と(と)か(か)た(た)と(と)う(う)れ(れ)の(の)ま(ま)う(う)の(の)書(か)と(と)か(か)く(く)わ(わ)う(う)を(を)う(う)
は(は)付(つけ)も(も)が(が)り(り)と(と)ま(ま)う(う)伏(ふく)し(し)と(と)ま(ま)う(う)と(と)ま(ま)う(う)と(と)ま(ま)う(う)

つまと縄をもつてからう事むつたすめあうとまよる
ちゆくとゆそ縄をうけどして他にうれや時分のりわくは
つま縄をとふりふらせぢます。自害をあせまへ。かみ先
をもひ又たむを縄よ西門とまにひれ人ひぬこへひらきよし
今とまゆも自害の用ひありん爲を

第十三人と楊烈の事

天主の囚人よハ首に縄をうけまじき止

一箇と縄つけ山引とする南智よが怪すとておひくうの
像わうるまうびの弦又ハ刀風けとすとかじる
平左とくらむかとてよどゆすをうくじ
一箇とくらむかとてよどゆすをうくじ

きり通ひ

第十四人責相をす

あせむる喰ふるやきとて逃せあそとあくゆむりとま
く。通すとよりえあくふけとて。但あくゆとくをせま
天ざめぬすあちうとてよく掌外て薙す切とてあすめま
うととひびくや。あやうみ二箇なり

第十五人切股人のがいとく仕相をす

一切股人よゆと脇持とつとくとて。毛もくらすす
きためたり。さきに三分よりやりくをもとへかく
がくすすく。日月よじもく切て。我けと切股人よ
うふきあ。性の股人のたれようぶせすれもん

国文学研究資料館
175096
平成23年3月25日

ぬよよりてあよきがるもき。かくされ候へ也。とす
たまゆらをうばだ。因ふまもたらせば、ふ別むや

第十六 かくゆく人目付の事


首とひしろくきうちとあよハ撲キ。もく切たまく。すゆ
がいやいやとたゞのりのむりうちも。もじと。和辱と。う
さづやあひととくきまつて。は云切股人の乳。こうじゆ
人右のいざと。きくよア。切股人のやど。も目と。を
て切くまつて。切股人の首。うけや。にすくき條。か
手。ひきまつて。切股人の首。うけ。はよきの。より。切股人。彌務
と。り。迦時。ひきまつて。本よが。首の。びて。みあつて。こ。時。よ
月と。能う。五。も。う。そ。人の。刀。長。と。ひ。先。と。又。腸。筋。と

がいやす。財の。きの。方。も。き。居。べ。し。世。も。財。の。肩
尾。よ。の。あ。今。

第十七 挑ほん心ゆく事

そん。の。切。股。人の。ま。向。か。方。よ。立。く。し。る。ひ。立。く。
む。ゆ。ぐ。ん。も。立。く。も。も。立。く。ゆ。く。そ。切。股。人。そ。そ。の。方。と。う。バ
ひ。取。て。ん。お。り。く。接。く。う。手。を。乗。見。彼。を。一。入。た。ま。う。下。

右竊盜の服を。序ア左。其の代係。其が勇士。發明。乃
吉。徳。と。以。め。び。也。文。徳。見。す。き。つ。ゆ。う。と。只。懷。中
れ。あ。事。を。及。よ。前。後。接。通。之。候。無。多。大。小。と。と。す。



The « Gunpô Jiyôshû » is a japanese collection from 1664, gathering various warrior traditions of the time, in 12 books.

You will find here all of the complete 12 books.

Here is the 12 books index :

Book 1 : Questions and answers about bravery.

Book 2 : About preparation to battles. (First part)

Book 3 : About preparation to battles. (Second part)

Book 4 : About preparation to battles. (Third part)

Book 5 : About the weapons and the tools.

Book 6 : About shinobi / ninja. (First part)

Book 7 : About shinobi / ninja. (Second part)

Book 8 : About shinobi / ninja. (Third part)

Book 9 : About lucky and unlucky day, time and direction. (First part)

Book 10 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Second part)

Book 11 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Third part)

Book 12 : About *ki* (*chi* or *qi*).

For information, these 12 books of the « Gunpô Jiyôshû » have been fully published and translated in modern japanese in a single book, during the year 2001, by the japanese publisher Perikansha :

[https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB
%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D
%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE
%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F
%B2/dp/483150971X](https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X)

Auteur : Ogasawara Sakuun (小笠原 昨雲)
Titre en langue originale : « 軍法 侍用集 »
Titre en japonais : « Gunpô Jiyôshû »
Titre en français : « Recueil des techniques guerrières des samouraïs »
Titre en anglais : « The collected way of the samurai military arts »
Année : 1664

Le « Gunpô Jiyôshû » est un recueil japonais datant de 1664, compilant diverses traditions guerrières de l'époque en 12 cahiers.
Vous trouverez ici l'intégralité de ces 12 cahiers.

En voici le sommaire :

Cahier 1 : Dialogue sur la bravoure.

Cahier 2 : Sur la préparation aux batailles. (Première partie)

Cahier 3 : Sur la préparation aux batailles. (Deuxième partie)

Cahier 4 : Sur la préparation aux batailles. (Troisième partie)

Cahier 5 : Sur les armes et les outils.

Cahier 6 : Sur les ninja. (Première partie)

Cahier 7 : Sur les ninja. (Deuxième partie)

Cahier 8 : Sur les ninja. (Troisième partie)

Cahier 9 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Première partie)

Cahier 10 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Deuxième partie)

Cahier 11 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Troisième partie)

Cahier 12 : Sur les manifestations de l'énergie vitale (le *ki*, *qi* ou *chi*)

Pour mémoire, ces 12 cahiers du « Gunpô Jiyôshû » ont été intégralement retranscrits et publiés en japonais moderne en un seul livre, en 2001, par les éditions japonaises Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>